2020年度
社会構築論系
ゼミ要項

最新情報は、論系ゼミ／ゼミ論文／卒業研究 Web ページ
で随時確認するようにしてください。

早稲田大学 文化構想学部

2019 年 9 月　(作成)早稲田大学文学学術院事務所

1	担当教員	科目名	定員
	川尻 秋生 久保 健一郎	社会構造論ゼミ１（日本社会の成り立ちを考える） プログラム：社会構造論	10～15 名

授業内容

【3 年生】

本ゼミでは教員２人が常に出席し担当します。

授業の目的は、歴史学的方法を基軸に据えて、日本社会の成り立ち、そして、その特質について検討することです。具体的には、「基礎講義」のオンデマンドコンテンツを見ていただきたいと思いますが、まず、近現代社会を視野に入れつつ、ゼミ生との話し合いによって、その年度の大テーマを設定します（これまでは戦争、都市、宗教などがありました)。その上で、ゼミ生の報告をもとに教員・ゼミ生相互が討論を行い、問題の本質を解明します。

なお、合宿・調査旅行なども行い、フィールドワークも適宜実施する予定です。

【4 年生】

基本的に３年生と同じですが、ゼミ論執筆に向けて、内容は高度になります。また、ゼミ論執筆のため、少人数による指導も行いたいと思います。

シラバス

【3 年生】

４月～６月の間は、私たちが選んだテキストについて合評を行い、分析方法の理解・習得をめざすとともに、その年度の大テーマを設定し、その内容理解を深めます。班ごとの発表を予定しています。７月には、大テーマに沿った各自（各班）の小テーマを設定し、９月の合宿を経て本格的な学習をはじめます。

10 月以降、各テーマに沿った研究報告を行って討論を行い、年度末にレポート化していただきます。したがって、この時点までに、ある程度の分析能力、叙述能力の取得ができることを目指します。その上で、文集の形にまとめたいと思います。

【4 年生】

基本的には３年生と合同でゼミに参加することを考えていますが、ゼミ論指導の時間を別に設け、きめ細やかなゼミ論文作成のための指導を行う予定です。

教科書

特にありません。ただし、論文や著書の一部をコピーして配布する場合があります。

参考文献

適宜指示します。

評価方法

出席状況、報告内容、討論に積極的に参加したか否か等の点から、総合的に評価します。

履修モデル

大学のホームページをご参照下さい。

ゼミ紹介

私たちは、学生の皆さんが積極的にゼミに参加し発言すること、そして、何よりも問題に対して自分自身で深く考えることに期待します。それには、日ごろから、身の回りにある情報や知識を鵜呑みにするのではなく、それらが正確か、またそうであるならばその原因を調べ・考える姿勢が大切です。つまり私たちは、「疑問に思う」態度を大切にします。

こうした物事に対する考え方は、大学を卒業してからも、きっと役立つはずです。私たちは、ゼミ生の皆さんがこのような習慣を体得するお手伝いをしようと思っています。「厳しくも暖かい」。これが私たちのゼミの方針です。

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】【4 年生】2 学年合同で木曜 5 時限に行う。

選考方法

・ゼミ志望理由書
・2 年春学期までの成績を参考にする。
・面接を行う。

見学会（浅草浅草寺付近にて　前列右から２番目のゼミ生は人力車夫のバイト中でした）

2	担当教員	科目名	定員
	柳澤　明	**社会構造論ゼミ２**（近代アジア社会の形成） プログラム：社会構造論プログラム	15 名

授業内容

このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とします。

アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できません。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、だいたい 19 世紀後半から比較的急速に進行しました。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などあらゆる側面で、現代に大きな影響を及ぼしています。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の諸相を歴史的にあとづけていく必要があるのです。

もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での歴史的条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではありません。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要です。

このゼミで扱う地域は、東アジア――中国とその周辺――が主となりますが、個々の関心に応じてアジアの他の地域を取り上げてもかまいません。日本の中だけで完結するようなテーマは基本的に対象外ですが、アジア諸地域と日本との交流や比較という視点での取り組みは歓迎します。時代の範囲も明確には定めがたいのですが、だいたい 17 世紀頃から 20 世紀前半までが中心となるでしょう。

参考までに、担当教員（柳澤）の主な研究対象は、次のとおりです。

◆清朝の民族関係・対外関係

◆近世～近代東アジアの国際関係、東アジアとヨーロッパの関係

◆内陸アジア（モンゴルなど）の歴史と文化

シラバス

※下記の進め方はあくまで基本形で、ゼミ生のみなさんと相談しながら、書かれていない内容も適宜組み込んできいきます。両学年合同なので、学年を超えた意見交換・討論を行いながら進めます。

【3 年生】

春学期：ゼミ論文の構想を練るため、各自の関心分野について既存の研究の流れを把握し、代表的な論著をいくつか読んで要約・批評します。ただし、学期中の一定期間は、特定のテーマを立てて、3 年生を中心に 4 年生も加わる形でグループワークを行う予定です。そこに学外での実習（博物館参観など）を組み込むことも考えています。

※2019 年度は、3 つのグループに分かれて映画（「ラストエンペラー」など）や課題図書を選んで、さまざまな視点から分析を加え、ディスカッションを行いました。

秋学期：ゼミ論文の構想確立に向けて、引き続き既存の研究の要約・批評を行います。また、論を組み立てていくために必要な史料・データの収集を進めます。

【4 年生】

春学期：ゼミ論文の問題設定を確立し、発表します。単に「○○を扱う」、「△△について調べる」ということではなく、先行研究を読み込んだ上でオリジナリティのある「問い」を立てること、結論を導く上で必要となる史料・データを収集・把握していることが求められます。なお、学期中の一定期間は、3 年生を中心とするグループワークに参加します。

秋学期：ゼミ論文の執筆を進め、その過程で進行状況を適宜発表します。

教科書

特にありません。

参考文献

1 冊ですべてをカバーするような参考文献はありませんが、研究入門の類をいくつか挙げておきます。

岡本隆司、吉澤誠一郎編『近代中国研究入門』東京大学出版会、2012.

礪波護他編『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会、2006

田中比呂志、 飯島渉編『中国近現代史研究のスタンダード：卒業論文を書く』研文出版、2005

歴史科学評議会編『卒業論文を書く：テーマ設定と史料の扱い方』山川出版社、1997

小松久男、荒川正晴、岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』山川出版社、2018

吉田順一監修・早稲田大学モンゴル研究所編『モンゴル史研究：現状と展望』明石書店、2012

桃木至朗編『海域アジア史研究入門』岩波書店、2008

評価方法

発表内容とゼミ活動への参加度（出席状況、グループワークへの参加など）によります。

関連 URL

授業実施曜日・時限（予定）

月曜 5 限に両学年合同で行います。基本的に 5 限だけで完結します。

履修モデル

社会構造論プログラムの演習を多めに履修しておくとよいでしょう。講義としては、「アジア地域社会論」、「アジアの地域・都市の歴史」、「アジアの近代」、「アジア史特殊講義４」「アジア史特殊講義５」などに、関連の深い内容が含まれています。なお、語学については、必ずしも中国語・朝鮮語などアジアの言語を履修していなくてもよく、ヨーロッパ諸言語やアラビア語履修者も歓迎します。

ゼミ紹介

2018 年度に新設されたゼミなので、まだ特筆すべきことはありませんが、どちらかというとゆるやかな雰囲気です。

備考

選考方法

項	選考方法	実施の場合は「○」
1	ゼミ志望理由書（必須）	○
2	2 年春学期までの成績を参考にする。	
3	面接を行う。	○※
4	抽選による。	
5	その他（別途提出物を求めるなど）	
上記「その他」の内容： ※面接日を設定しますが、選考の必要条件とはしません。ゼミの内容や進め方などについて質問・相談のある人だけ来ていただければ結構です。		

以　上

3	担当教員	科目名	定員
	樽本 英樹	社会構造論ゼミ３(国際移民とヨーロッパの比較社会分析) プログラム：社会構造論	15 名

授業内容

【3・4 年生共通】

本ゼミは 2018 年度に新規開講した授業である。グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。特に近年、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ 1990 年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしたい。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。最終目標は、ゼミ論文などの形で自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになることである。またその過程で、受講生は英語の文献を読みこなすスキルを身につけることであろう。

教員が近年開講してきたゼミのテーマと取りあげた文献は、たとえば以下の通りである。

移民研究に関する学問分野間の対話（Brettell, Caroline B. and James F. Hollifield 2015 *Migration Theory: Talking across Disciplines* (Third Edition), New York and London: Routledge.）

重国籍の何が問題なのか？（Hansen, Randall, and Patrick Weil (eds) 2002 *Dual Nationality, Social Rights and Federal Citizenship in the U.S. and Europe: The Reinvention of Citizenship*, New York and Oxford: Berghahn Book.）

多文化主義は死んだのか？（Joppke, Christian 2017 *Is Multicultralism Dead?: Crisis and Persistence in the Constitutional State*, Cambridge: Policy Press.）

なぜ極右政党は台頭したのか？（Rydgren, Jens 2007 The Sociology of the Radical Right, *Annual Review of Sociology*, 33: 241-262.）

なぜイスラム過激派はテロを起こすのか？（Tahir Abbas 2011 *Islamic Radicalism and Multicultural Politics: The British Experience*, Abingdon, Oxon and New York: Routledge.）

日本に多文化主義は存在するのか？（Nelson H. H. Graburn, John Ertl, and Kenji Tierney, 2008 *Multiculturalism in the New Japan: Crossing the Boundaries Within*, New York and Oxford: Berghahn Books.）

イギリスの移民は自ら住み分けを選んでいるのか？（Finney, Nissa and Ludi Simpson 2009 *'Sleepwalking to Segregation'? Challenging Myths about Race and Migration*, Bristol: Policy Press.）

【4 年生】

本ゼミ終了後に論文指導を適宜行う予定である。これまで指導してきた卒業論文のテーマには、たとえば以下のようなものがある。

『介護職として働く日系ブラジル人女性』『精神障害者の社会復帰における共同作業所と地域社会』『アファーマティブ・アクションの成果と限界』『港湾都市の再生と地域社会諸組織の適応戦略－小樽市を対象として』『最先端医療現場における新たな役割分化』『医療現場における専門性をめぐる対立』『地方自治体の政治戦略』『日本における難民への対応と課題』『まちづくりの

継続と協働への可能性』『消費による女性のアイデンティティ戦略』『現代日本におけるポピュラー音楽消費の変化』『中小企業による産地ブランド戦略の可能性』『過疎地域における外国人研修制度の活用と課題』『中等教育における総合学習の可能性と限界』『「冤罪事件」の社会的構築』『フリーターの意味世界』『世界遺産のもたらす課題と希望』『里親制度』『外国人花嫁の移動と適応』『母子世帯支援の転換にみる社会的包摂の可能性』『ライフスタイル移民という選択』『人口減少社会における私立高校の生存戦略』『旧産炭地のための戦略と可能性』『外国人の周辺化と日本語教育』『寒冷地における農産物直売所と地域活性化』『「企業の社会的責任」の意味世界』『自衛官のアイデンティティの特徴と形成』『国際観光振興における訪日教育旅行の可能性』『子どもの社会的排除』『日本企業におけるダイバーシティの模索』『ハラールフードの展開と課題』『日本のプロスポーツにおける外国人枠』『空間の分配をめぐる社会運動とその変容』『海外の日本人コミュニティの変容』『再稼働をめぐる原子力政策と反原発運動の展開』『テクノロジーによる労働過程の現代的変容』『非外国人集住都市における国際化施策』。

シラバス

【3・4 年生共通】

前期は、文献を用いて社会学など社会科学的分析の基礎的な概念と考え方を身につけることを目標とする。そこで文献の読み方、参考文献の探し方、文献の批判の仕方、討論の方法などを学ぶ。後期はより応用的な文献購読に移る予定である。後期の最後にゼミ論文集を編む可能性もある。ゼミ論文集では３年生は自らの研究テーマに関する本の書評、４年生はゼミ論文の要約を載せる予定である。

【4年生】

社会科学的分析の学修と共にゼミ論文の構想を発表する。続けて後期にはゼミ論文の執筆へと移っていく。後期の最後には、３年生と共に「ゼミ論文発表会」を行いゼミ論文の内容を検討する。

教科書

【3・4 年生共通】適宜指示する。

参考文献

【3・4 年生共通】

Castles, Stephen, Hein de Haas, and Mark J. Miller 2011 関根政美・関根 薫訳『国際移民の時代』第 4 版, 名古屋大学出版会.(最新版は、Stephen Castles, Hein de Haas, and Mark J. Miller 2013 *The Age of Migration: International Population Movements in the Modern World*, 5th ed., Palgrave.)

見田宗介 1996『現代社会の理論－情報化・消費化社会の現在と未来』岩波書店.

西原和久・樽本英樹編 2016『現代人の国際社会学・入門－トランスナショナリズムという視点』有斐閣.

樽本英樹 2016『よくわかる国際社会学』ミネルヴァ書房.

友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編 2017『社会学の力－最重要概念・命題集』有斐閣.

樽本英樹編著 2018『排外主義の国際比較－先進諸国における外国人移民の実態』ミネルヴァ書房.

評価方法

【3・4 年生共通】通常ゼミのレポートとコメントの質、討論への参加度合いによって判断する。無断欠席は厳禁。

授業実施曜日・時限（予定）

【3・4 年生共通】前・後期 木５、６限（2 学年合同）

３年生は５限、４年生は６限に登録されるけれども、合同で５限に文献購読を行い６限に討論や論文指導を行うため、５限と６限の両者に出席可能な体制を取ること。

履修モデル

特に定めないけれども、社会学、政治学、経済学など社会科学に関連する授業を積極的に履修することを勧める。

ゼミ紹介

ゼミの運営は学生主体でやっていただく。ゼミコンパ、ゼミ合宿など各種行事を歓迎する。

本ゼミではまず、ゼミのメンバーをいくつかの班に分け、それぞれが文献のレポートとコメントを担うというように役割分業をする。木５限の授業内は３部構成に分かれる。第１に、レポートの班が文献の内容を要約して発表する。具体的には、1）文献の内容を正確に伝える。2）わかりにくい語句、論点について他の資料等を用いて解説を加える。

第２に、続いてコメントの班が文献の内容を別の文献やデータを用いて批判する。具体的には、1）不明な点を指摘する。2）誤った点を指摘する。3）論点を補足する。4）資料（証拠）を補足する。

その後、コメントに基づいて全員で討論を行う。討論に決着が付けば、当日のゼミは終了となる。

また木曜日より前の日に、各班でサブゼミをやっていただく。サブゼミでやるべきことは木曜日当日のゼミのために準備したレポートやコメントの検討であり、時間は10分か15分で十分と考える。

選考方法

項	選考方法	実施の場合は「○」
１	ゼミ志望理由書（必須）	○
２	2 年春学期までの成績を参考にする。	○
３	面接を行う。	○
４	抽選による。	
５	その他（別途提出物を求めるなど）	○
上記「その他」の内容： これまで読んだ中で最も印象に残っている本を１冊あげ、その理由を書け。本のジャンルは問わない。枚数は自由。		

以　上

4	担当教員	科目名	定員
	森田 貴子	社会構造論ゼミ４（近現代日本経済史） プログラム：社会構造論	10～15 名

授業内容

近現代日本の経済と社会について、歴史学と経済学の観点から研究する。人間が社会の中で生きていく上で必要なモノ・コト・情報を生産・流通・消費する経済活動は、技術革新の目覚ましい現代社会において重要性を増している。経済成長は、経済的・物質的豊かさ、利便性などを与えると同時に、雇用問題、格差、環境破壊などの多様な課題を生じさせてもいる。

では、日本資本主義はどのような歴史的過程を経てきたのか。現代社会で起きている経済的事象について、何が問題であり、どのような対策・解決方法がとられているのか。経済活動は、時代や地域を超えて、個人や社会に、どのような意義をもたらすことが可能であるのか。本ゼミは、このような問題意識のもとに、課題を設定し、分析・討議を通して、論理的な思考のもとに自己の見解をまとめていく。

ゼミ活動を通して、①関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、歴史学・経済学の手法を用いて分析し、論点を構成する技術、③発表能力、を習得する。

シラバス

【3 年生】

春学期は、当該年度の共通テーマを決め、いくつかの班に分かれて具体的なテーマを設定し、グループ研究を行う。同時に、近現代日本経済史に関するスタンダードなテキストを用いて、テキスト講読を行う。テキスト講読を通して、日本経済史に関する基礎を理解し、秋学期以降の研究発表のテーマを探す。これらの研究発表に対して、ゼミ生全員で討議を行う。

秋学期は、テキスト講読と研究発表を行う。あわせて、現代経済に関する時事問題について、発表担当者が関心のあるテーマを取り上げ発表する。

年度末に、１年間の成果をレポートにまとめる。

【4 年生】

春学期・秋学期とも、各自の「ゼミ論文」のテーマに関する研究発表と討議を中心に行う。あわせて、現代経済に関する時事問題について、発表担当者が関心のあるテーマを取り上げ発表する。

12 月中旬に、「ゼミ論文」を完成させる。

【3 年生・4 年生合同】

見学会、発表会、打ち合わせ、懇親会などは、3 年生・4 年生合同で行う。合宿については、初回に相談し、決定する。

教科書

【3 年生】

近現代日本経済史に関するテキスト 1 冊（2,000～3,000 円）。テキストは 3 月に指定する。1 回目のゼミまでに、各自で購入する。

参考文献

【3 年生】【4 年生】　研究テーマに応じて、適宜、文献を紹介する。

評価方法

【3 年生】【4 年生】

出席状況、発表準備、発表内容、討議、ゼミ活動への参加状況、により総合的に評価する。

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】　月曜日 4 時限。

【4 年生】　月曜日 5 時限。

3 年生は 4 時限、4 年生は 5 時限に登録されるが、合同で授業を行うため、4 時限と 5 時限をあけておくこと。

履修モデル

専門演習「社会構築論系演習（社会構造論１６）」、講義「経済と社会」「近代日本の社会制度と社会思想」「地域・都市の歴史」などを、履修することが望ましい。

ゼミ紹介

発表や質疑応答の時間を十分に取るためと、基礎的レベルと応用的レベルに分けるため、3 年生・4 年生で授業時間を分けている。3 年生が 4 年生のクラスに、4 年生が 3 年生のクラスに、自主的に参加することは歓迎する。

ゼミ活動を通して、専門知識を学び、問題発見・解決能力を習得する。経済と社会に関わる知識や問題意識、それらを解決しようとする論理的思考力は、いつの時代においても必要とされる能力である。ゼミ活動を通して得た力は、卒業後に、どのような進路に進んでも、活用される力となるであろう。これまでの進路先として多い分野は、金融保険業（銀行・証券・保険)、製造業、情報通信業、卸売業（商社）などである。

近現代日本の社会構造・経済構造に関心があり、意欲・コミュニケーション力がある、ゼミ活動に主体的に参加する学生を希望する。

選考方法

１．ゼミ志望理由書（必須）

２．2 年生春学期までの成績を参考にする。

３．面接を行う。

＊　2 次選考以降は、別途提出物を求めることがある。

5	担当教員	科目名	定員
	田畑 幸嗣	地域・都市論ゼミ 3（文化遺産論） 副題：文化遺産の保存と活用 プログラム：地域・都市論	10～15 名

ゼミ紹介・内容

アジアを中心に、文化遺産に関わる諸問題をとりあつかいます。文化遺産のありかたは多様で、それをめぐる問題も、リスク・マネージメント、保存と活用、観光との共存、地域社会への教育・還元、所有権など多岐にわたっています。またこれらの問題は、それぞれの文化遺産のもつ歴史的・地域的・政治的文脈におおきく依存しています。こうした地域ごとに性格のちがう文化遺産を、具体的にどのように保存し次世代へ継承していくのかを考えるゼミです。

ゼミでは、ゼミ生がテーマを設定し、可能であればフィールド・ワークを含む実地検証をおこなうことで、各自が対象とする文化遺産（文化財）の保存・修復や活用などの面で具体的な提言プランを作成することを目指しますが、こうしたことの基礎になるのは、徹底的な史資料調査です。そのため、このゼミではリサーチを重視します。ゼミ論文のテーマ探しも、ゼミ生の興味・関心のある文化遺産をまず調べ、それを紹介してもらいながら見つけていきます。

シラバス

【3 年生】

地域・都市の中における文化遺産の問題をさまざまな角度で考えていきます。グループ・ワークとして各地の文化遺産（世界遺産）における現状と課題についてリサーチをするとともに、文化遺産に関する基本文献の読解を通じ、幅広く文化遺産理解を深めることをみざします。また、各自の興味関心に従い、4 年次に作成するゼミ論文を決めるための予備的作業を実施します。

【4 年生】

3 年生の時に学んだ地域・都市における文化遺産のあり方をさらに深める中で、具体的な研究・目標を設定していきます。個々にテーマを設定し、その問題に関して調査・研究することで地域・都市における文化遺産に関する保存・修復や教育・還元などの提言プランともなるようなゼミ論文を作成することを目指します。問題の所在や方向性、課題などに関し、常にゼミで報告・討議することによって、内容の豊かなゼミ論文を完成するようにしたい。

ゼミ合宿

文化財・文化遺産の見学を目的としたゼミ合宿を実施します。

教科書

【3・4 年生】特にありませんが、みなさんの発表を聞きながら、適宜読むべき文献を指示します。

参考文献

教場で指示します。

評価方法

【3・4 年生】出席と受講態度、提出レポートで判定します。とくにディスカッションへの貢献度を重視します。

履修モデル

◆社会構築論系履修モデル 12

「文化遺産の保存と活用～都市景観の保存と文化財の活用」が参考になると思います。

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】【4 年生】2 学年合同で、月曜３時限を予定しています。

選考方法

- ゼミ志望理由書と 2 年春学期までの成績にもとづいて選考します。
- 地域・都市論（特に文化遺産）関連のブリッジ科目、演習科目を履修している学生が望ましいですが、必須ではありません。意欲のある学生を歓迎します。
- 必要に応じて面接をおこないます。

6	担当教員	科目名	定員
	豊田 真穂	共生社会論ゼミ１（優生思想とジェンダー） プログラム：共生社会論	15 名

授業内容

「優生思想」ときくと、昨年あたりからニュースでも大きく取りあげられるようになった優生保護法に基づいた強制不妊手術を思いつく人が多いかも…？　あるいは、2016 年 7 月に相模原市の障害者施設で起きた戦後最大の殺傷事件を思い起こす人もいるのでは？

しかし果たして、優生思想は過去の問題なのでしょうか。優生思想とは、(1)優れた形質をもつ者＜適者＞と、(2)劣った形質を持つ者＜不適＞者を選別し、その存在の可否を他者が決定するイデオロギーです。この考えは 20 世紀初頭に欧米諸国をはじめ日本でも隆盛しましたが、このゼミでは、21 世紀の日本社会においてもなお、例えば出生前診断や婚活ビジネスなどによって、わたしたち自身が抱えている問題であることを重視します。その際、優生思想の歴史をひもときながら、特にジェンダーの視点から分析します。最終的には、現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を、歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望することを目指します。

シラバス

このゼミでは、教員はサポート役に徹し、学生が主体となって運営します。

前期

【3・4 年生共通】　「優生思想」と「ジェンダー」に関して、チームが各々のトピックを選び、40 分間の「授業」を立案し、実際に「授業」を展開します。プレゼンと「授業」には異なる点が多数あり、そこから各自が「学ぶ」ことによって、「教えることが最も有効な学び」になることを目指します。教員は、「授業」立案のプロセスでのサポートと、「授業」後に「受講生」とともに各グループへのフィードバックを行います。2018 年度はジェンダー論の「聖典」と呼ばれるような理論書を、2019 年度は日米の優生学史を扱った文献を解読し「授業」にしました。

2019 年度にはゼミ生の発案により、事前事後学習みっちりして吉原遊廓跡地ツアーを実施しました。

【4 年生】　このほかにゼミ論文の構想のプレゼンを行います。

後期は、ゼミ論文にむけての個別ワークとピアレビューへと移行します。

【3 年生】　ゼミ論文執筆に必要な技術を身につけること（図書館ガイダンス、論理トレーニング、クリティカルリーディング等）を行いつつ、最終的には、個人研究（ゼミ論文）への最初のステップとして、自分の定めたテーマに関する本の書評を書くことを目標とします。

【4 年生】　本格的にゼミ論文執筆を行い、ゼミ生同士の相互添削に従事し、ゼミ論文の完成度を高めます。

【3・4 年生共通】　12 月、3 年生が 4 年生の論文にコメントする「ゼミ論文講評会」を行います。

教科書　参考文献　適宜指示する。

評価方法

【3・4 年生共通】　「授業」・ゼミ論文講評会でのプレゼンおよびコメント、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、レポート内容、および出席状況等により、総合的に判断。

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】火曜 2 限／【4 年生】火曜 4 限（春学期）、火曜 3 限（秋学期）

3 年生は 2 限、4 年生は春学期は 4 限、秋学期は 3 限に登録されます。

ただし、4 年生は春学期のみ 2 限のゼミにも参加します。

3 年生は秋学期のみ 3 限を極力あけておくことをオススメします（12 月に 2 週連続で【3・4 年生共通】の 2-3 限連続授業を行うため）。

履修モデル　特に定めないが、ジェンダー関連の科目を履修していることが望ましい

社会構築論系履修モデル 16（現代社会におけるジェンダー）も参考にしてください

ゼミ紹介

このゼミは、学生のみなさんが主体的に運営します。「ゼミ長」は存在しませんが、すべてのゼミ生がなんらかの「係」を担ってゼミにコミットします。また、グループワークを中心として、学生同士のディスカッション、プレゼンおよび「授業」、研究発表への相互コメント、相互添削などがゼミの基本となります。そのため、学生のみなさんのゼミへの強いコミットメントを求めます（遅刻欠席不可）。

また、ゼミを通してクリティカルな思考法を身につけることを目指します。「クリティカル」は「批判的」と日本語に訳されますが、批判的であるということは、必ずしもあら探しや非難することではありません。見聞したことをそのまま受けとめるのではなく、客観的・分析的に理解することです。そのためには、上手に「考える」ことが重要になります。そこでゼミでは、「考える力」を身につけることを目指します。ゼミが今までとは違うやり方で世界を見るためのレッスンとなることを目指します。

なお、ゼミ論文のテーマは「ジェンダーと優生思想」の交差よりも、「ジェンダー」「優生思想」それぞれに特化したものが多いですが、そのほか基本的にゼミ生の関心に即したテーマが選ばれてきました。過去の論文は、33 号館 904 論系室に論文集が保管されているので、ご参照ください。

選考方法

＊主にゼミ志望理由書をもとに、成績と面接も参考にして総合的に判断します。

1．ゼミ志望理由書　　以下の 3 点を必ず書いてください。

①これまで何を学んだか（独学でも可）

②これまでの学びと本ゼミのテーマとはどのような関係があるか

③現時点でゼミ論文のテーマとしたいこと（できる限り具体的に）

2．2 年春学期までの成績　　どのような科目を履修しているか等も参考にします。

3．面接　　ゼミ生による個人面談を予定しています。ゼミ選考期間に個人面談の日時を相談するメールを「ゼミ志望理由書」に書かれたメールアドレス宛てに送信するので、選考期間中はこまめにメールチェックし、必ず返信するようにしてください（**返信がない場合は選考できません**）。

7	担当教員	科目名	定員
	森 元孝	共生社会論ゼミ２（現代共生理論） 副題: *Can we live together?* プログラム：共生社会論	最大 15 名

授業内容

「未来社会を見透す」能力を身につけることを目標にする。日本を超えて世界にわたって活躍している先輩たちに続くあなたに期待している。

いろいろな人たちと理解し合うコミュニーケーションの前提が、face-to-face から peer-to-peer へと急速に拡張されている現在を理解し、直面する深刻な事象をよく観察し、10 年後、20 年後の「社会」がどうなり、みなさんがそこで遭遇する他者たちと巧くやっていけるかを見透す力を磨く。それゆえに Can We Live Together?が基本テーマとなる。

Q&A

（1） 森ゼミ志望に際して、事前に済ませておくことがあるでしょうか？

A: 私の授業、私の著書などを介して、私を知るのがよいでしょう。まずプロモーション・ビデオを見て、以下を閲覧・熟読し、ゼミの方針、雰囲気、私のことを知っておくこと。

森研究室 HP　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
森　元孝のブログ http://wienmoto.at.webry.info/
早稲田大学が公表する、森　元孝の研究者データベース
森　元孝　Amazon 著者セントラル

（2）森ゼミでは、どんなことをしていますか？

A:　2019 年度の予定は公表しているので、まずそれを見る必要がある。

春学期は教科書〔森　元孝『理論社会学　－社会構築のための媒体と論理』（東信堂　2014 年）2,400 円と、加えて森　元孝『未来社会学序説』（東信堂　2018 年）2,000 円〕をつうじて社会学理論と未来社会論の基本を体系的に学び、「リスク」「貨幣」「権力」「法」「暴力」「愛」「身体」「組織」「知識」について、グループ報告と質疑応答と議論を繰り返し習得する。それを踏まえ、学期末合宿のチーム研究（報告と討論）を行い、セメスター末プロシーディングスにまとめる。

秋学期は、春学期の根本課題を踏まえて、近未来の経済社会、政治社会について、テーマを掲げ、学期末合宿を目ざしてチーム研究を進め、プロシーディングスとして公表する。

加えて社会科学の基本論理と問題を学び英語の語彙・表現を再確認するために、2019 年度秋学期は、Friedrich von Hayek, *The Denationalization of Money: An Analysis of the Theory and Practice of Concurrent Currencies,* London 1978 の一部分を精読している。一流大学の学生は、こういう歴史的論文の原著を読んでみる必要がある。

（２） 森ゼミは、何曜日何限に行われるのですか？

A: ２学年合同で金曜 5-6 限。簡潔で要領よく頭のよいゼミ運営をモットーとし、時間だけだらだら長い退屈な報告の繰り返しはやらない。

（３） 合宿が必修だと聞きましたが？

A: ３、４年生ともに年２回〔７月第１週（軽井沢 SH)、12 月第３週（川奈または鴨川 SH)〕２泊３日（夏 20,000 円程度、冬 18,000 円程度、**交通費・宿泊費・食事代等を含む全額参加者負担**）行なう。

（４） ゼミ論文は、どう準備すればよいでしょうか？

A: ゼミ論文は、個人研究として徹底してもらう（森ゼミゼミ論文題目一覧）。

（５） 森ゼミの卒業者は、どんな進路を選んだのでしょうか？

A: 森ゼミは、1987 年第一文学部社会学専修の調査実習ゼミとして発足し、傑出した先輩たちを多数、世に送り出してきた。卒業後も FB などつうじて、魅力的な卒業生たちと個人的関係も大事にしている。「仕事をする」と題して、活躍する OB の講演会をほぼ毎年開催している。

（６） 森ゼミ修了者には記念品があると聞きましたが？

A: ゼミ完走者には、想い出満載の森　元孝特製ＤＶＤを贈呈する。

（７） 留学をする予定なのですが？

A: 遊学、留学、**遊学歓迎**。2009 年以来、アメリカ(10)、ブラジル(1)、カナダ(1)、中華民国(2)、ドイツ(1)、イギリス(1)、ウズベキスタン(1)、スウェーデン(1)。

選考方法

①志願理由書には、「森ゼミで何をしたいか」「高校・大学１，２年でしたこと（課外活動・冒険・読書・芸術・仕事など）」「これから計画していること」**など**を、自分の言葉で表現する。

②２年秋学期までの科目履修状況（成績ではなく）を**参考**にする。

③①と②では不明の場合、電子メールによるアンケート形式の書面インタビューを行う。

④第２次選考以降は、指定課題レポート。

8	担当教員	科目名	定員
	山西 優二	共生社会論ゼミ３（地域・文化・学びと平和構築） 副題：年度ごとに設定する プログラム：共生社会論	15 名

ゼミとは、参加と協働を軸にした研究・教育活動の場である。山西ゼミでは、3 年生と 4 年生が協働して取り組む「協働研究」（横軸）と、３年生・４年生がゼミ論(卒論)作成に向け取り組む「個別研究」（縦軸）が交錯しながら研究が進行することになる。

Ｉ「協働研究」（3 年生・4 年生）

協働研究の目的・内容

このゼミの協働研究は、国際化・グローバル化が進展し、一方地球的諸問題がその深刻さを増す中にあって、人間が自然との関わりを大切にしながら、人間と人間が共に生きること、平和に生きることに向けて求められる課題や方策を、「文化づくり」「地域づくり」そしてそのための「学びづくり」という視点から検討することを基本目的としている。したがって、これからの社会のあり様として注視されている「多文化共生」や「持続可能な開発」などの概念やそのアプローチも捉え直していくことになる。

ゼミでは、毎年特定のゼミテーマをゼミ生間での協議のもと設定し、そのテーマに即した基礎研究を踏まえたうえで、グループ研究のためのグループ別サブテーマを設定し、グループ協働研究を行っている。グループ協働研究では、文献研究を基礎としながらも、可能な限り、各地域やＮＰＯ・ＮＧＯなどの各種団体の現場にも関わりながら、丁寧な協議を通して、実践的かつ実感のある研究を生み出すことを心がけている。また年度末には、現場への報告を兼ねたゼミ報告書を作成している。

2009 年度ではゼミテーマを**「平和の文化を構築するための〇〇の提案ー構造的暴力の視点から歴史に学び、世界に学び、地域に学ぶー」**とし、「教育」「遊び・時間」「表現・コミュニケーション」「くらし」といったサブテーマからの研究が実施された。2010 年度ではゼミテーマを**「コミュニケーションと共生の文化」**とし、「戦争」「多文化共生」「食」「ＮＧＯ」「精神障害者」「早稲田のまちづくり」「格差」などの視点から、コミュニケーションのあり様への研究が実施された。2011 年度ではゼミテーマを**「地域にみる共生に向けての教育づくり」**とし、「国籍・民族」「言語」「経済格差」「震災」「市民参加」などの視点から、地域の実情に即した共生に向けての教育に関する研究が実施された。2012 年度ではゼミテーマを**「共生社会に向けての遊び」**とし、「遊びで構造を読み、遊びで物語を生む」ことを通して、消費社会を変容させ共生社会に近づく方策が検討された。2013 年度ではゼミテーマを**「マイノリティと共生社会」**とし、共生に向けて「人間関係」「はたらく」「教育」「社会保障」「公共圏」の視点から、マジョリティそしてマイノリティを取り巻く人間関係・社会関係・社会制度などにみられる構造を突き抜けていくことの重要性が指摘された。2014 年度では、**「新宿にみる外国人を取り巻く地域社会と共生社会」**をテーマに、「内なる多文化に出会い、外なる多文化とつながる」ことの重要性を視野に入れた研究が、新宿という足元に即して実施された。2015 年度では**「『ゆとり』からみる平和・共生に向けての風土を生かした地域づくり～祭りを題材として～」**をテーマに、土・木・山・水・風・光の視点から風土・祭りを捉え、文化としての風土のもつ共生に向けた地域づくりにとっての意味を浮びあがらせた。2016 年度では**「外国人労働者とその家族にとっての貧困問題とその解決」**をテーマにした研究が実施され、経済的欠乏としての貧困を越えた貧困の捉え直しと問題解決への方策が検討された。2017 年度では**「食をとりまく社**

会問題」をテーマに、「食べることは生きること」を基礎に食への感覚を大切にした研究が進行した。2018年度では**「若者の移動とその問題」**をテーマに、人とのつながり、自然とのつながり、仕事・職といった視点からの若者の想いを軸に据えた、若者が移動することの意味についての当事者性のある研究が実施された。

研究計画

ゼミ協働研究の年間の基本計画は以下の通りであるが、詳細はゼミ時に協議の上、決定する。年間を通して、年２回の合宿なども活用しながら、グループ協議・全体協議・フィールドワークなどを交錯させながら協働研究を進めていく。

４月・・・・・・・・・・オリエンテーション、過去の協働研究の振り返り
４月～６月・・・・・・・ゼミテーマの検討とゼミテーマに関する基礎研究
６月・・・・・・・・・・基礎研究を踏まえたゼミテーマの再検討、グループ研究のためのサブテーマ・メンバーの検討
６月～７月・・・・・・・グループ研究第１回発表・協議
７月～９月・・・・・・・夏休みを活用してのフィールドワークなど
９月・・・・・・・・・・ゼミ合宿
１０月～１２月・・・・・グループ研究第2・3・4回発表・協議
１２月・・・・・・・・・グループ研究最終発表・協議、ゼミ合宿
１月～２月・・・・・・・ゼミ報告書作成、１年間の総括、ゼミ研究報告会

参考文献

山西優二・上條直美・近藤牧子編『地域から描くこれからの開発教育』新評論，2008年
鈴木敏正・佐藤真久・田中治彦編『環境教育と開発教育～実践的統一への展望：ポスト2015のESDへ～』筑波書房、2014年　など

評価方法

ゼミ協働研究・個別研究への参加、グループ研究への参加、報告書の作成などによる総合的評価。

Ⅱ 「個別研究」（３年生夏期から４年生）

大学の学部研究の一つの集大成としてゼミ論を完成させる。「個別研究」は、個々人の研究を軸にしながら全員参加のもと発表・協議という演習方式で進めていく。「個別研究」演習の曜日・時間は、「協働研究」とは異なる時間帯に協議の上設定する。

研究計画

３年生夏期以降の研究計画の概要は以下の通りであるが、詳細は協議の上、決定する。

３年生７月～９月・・・・・・３年自由研究テーマの検討・自由研究の実施・研究成果への全体協議
３年生１１月初・・・・・・・「ゼミ論個別研究計画書」提出
３年生１１月～２月・・・・・個別研究テーマ・研究方法などの検討
４年生　４月～７月・・・・・「個別研究」演習での発表・協議
４年生　９月・・・・・・・・「個別研究」集中検討会

４年生１０月～１２月・・・・「個別研究」演習での原稿検討
４年生１２月・・・・・・・・ゼミ論提出

Ⅲ　ゼミの曜日・時限・選考方法

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】【4 年生】:「協働研究」は 2 学年合同で金曜の 5・6 時限に行う。
3 年生は 5 時限、4 年生は 6 時限に登録されるが、2 学年合同でゼミを行うので、両学年とも 5 時限・6 時限の時間を空けておくことが必要。
なお「個別研究」は異なる曜日・時限に行う。現時点では４年生は金曜の 3・4 時限に行う予定。

選考方法

「ゼミ志望理由書」「面接」を軸に、「2 年春学期までの成績」を参考にしながら、総合的に判断する。

＜山西ゼミの特徴（文化）＞

協働研究・個別研究・合宿・対外的イベント参加などを通して、「語りつくすこと」「学びつくすこと」「遊びつくすこと」がゼミのモットー（文化）になってきている。たとえば手づくりの食からなるゼミ合宿は実に楽しい。食材の調達から料理はすべて手作り。時には食器づくり・陶芸体験も行っている。対外的には、東京都主催の「大学生による多文化共生プレゼンコンテスト」に 2015 年度より 5 年連続で早稲田大学代表としてゼミで参加している。さらに長野県立上田高校の高校生との交流プログラムも 2016 年度より 9 月に実施している。

また 2 年次から 4 年次を通して、留学・休学などで国内外へ出かけていく学生が全体の 4 割以上を数えていることもゼミの特徴になりつつある。

2017 年 9 月　山西ゼミ合宿　in　檜原村

2017 年 12 月　山西ゼミ合宿 in 益子

2018 年 9 月山西ゼミ合宿 in 檜原村

9	担当教員	科目名	定員
	金　敬黙	共生社会論ゼミ４　（グローバル・アジア研究） 副題：グローバル化時代におけるアジアの役割と課題 プログラム：共生社会論	15 名程度

ゼミ紹介と授業内容　**このゼミはアジアと世界に関する諸事象についてグローバルな視点、平和研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。**

このゼミに参加する意義は？－アジアを主なテーマにしつつ、平和研究や国際関係論、社会学などの視点から、私たちの生活とのつながりを模索します。2020 年度のゼミ生は第 5 期生になります。本ゼミの文化・新しい伝統を構築し、ゼミの歴史を切り開くことを意味します。

どんな学生がこのゼミに向いているのか？－アジアが好きな方、アジアの時代が来たと確信している方、アジアの○○が問題であると思う方、日本とアジアの関係に希望または不安を感じている方…。このような問題意識を抱く学生にとって、このゼミはその問題意識を冷徹に分析・考察し、体感し、実践活動を通じて検証する場と時間になるでしょう。他人にその問題解決を任せず、自らアジアの役割と課題を探求する姿勢を重視します。それは自分の役割と課題を知る、いわゆる「自分探し」の旅路でもあります。冷徹な思考と熱いパッションをバランスよく組み合わせたい方、フットワークが軽快な行動派の学生にお勧めです。将来、アジアをはじめ海外をフィールドに活躍してみたい方にとって、このゼミは（失敗も含めた）原体験を創る現場（フィールド）になるかもしれません。また、平和学の視点を重視します。

ゼミの運営スタイルは？－ゼミは大学生活の醍醐味ともいわれます。個人の研究テーマも大切ですが、ゼミ活動を通じての協働作業は洞察力、協働力、コミュニケーション能力を高める場になるでしょう。そのためには、ゼミメンバーをはじめ外部アクターとの調整に必要な合意（コンセンサス）づくりが大切になります。言い換えれば、それが一つのコミュニティーや社会における政治であり、ゼミを取り巻く様々な出来事が実社会の縮図でもあります。民主的かつ自主的な運営スタイルを好み、ゼミ教員の役割はその調整を試みることです。当然ですが、ゼミ運営の当事者はゼミ生一人ひとりであり、その力が結集して、ゼミという集合体になります。

どのようなアプローチで進めるのか？－このゼミを通じて、グローバルな視点（日本、アジア圏内に限らず、世界におけるアジア研究の動向把握など）とローカルな視点からアジア（の特殊かつ地球的な課題）を探求する予定です。すなわち、グローバル化時代におけるアジアの発展や変化、アジアの役割と課題などについて地域研究ならびにトランスナショナルな分析枠組みから探求し、私たちが暮らす足元の課題にも着目します。その過程を通じて、卒業研究などの成果作成に発展させることが期待されます。ゼミ教員が担当する「アジアのトランスナショナル関係論」、「アジアにおける人間の安全保障」、「アジアン・ディアスポラ論」「アジアにおける紛争と和解」などの講義科目や演習科目との関連性も高いでしょう。

ゼミ教員の専門性と過去の経歴－ゼミ担当教員は、学生時代以来、世界を知るための旅を続けてきました。また、その学びをライフワークにするために、国際関係論、平和研究、アジア研究、市民社会論などを学び、研究と実践活動に取り組んできました。

大学院生の時から日本の国際協力 NGO の会員、職員や理事として、緊急救援担当や調査研究活動にかかわり続けています。学内では早稲田大学ジャーナリズム研究所、韓国学研究所の所員を務めつつ、実践的な学問、歩く学問を重視しています。

要するに、学術面での理論考察に加え、現場経験を通じた実践知を重視するスタイルをとってきました。したがって、現場（フィールド）を持つことを大切にしています。現場に出かけることは一見、華やかかつ楽し

さが先行しそうですが、多くの現場にはつらく悲しい問題が見え隠れします。また、現場は遠い海外ではなく身近な空間にもあります。どこが自分にとっての現場なのかは問題意識次第でしょう。

シラバス

【3 年生】ゼミは、ゼミ生主体のコンセンサスづくりが何よりも大切です。**春学期**には必要なディスカッション、フィールド選びなどについての問題意識を徹底的に共有します。**秋学期**には、徐々に個人の研究テーマを見つけ､そのための先行研究や事例選びなどに力を入れます｡アジアの特定国家や地域のことや､宗教や伝統、社会制度、文化事象、日本や私とのつながり、日本で再発見するアジア（人）などもテーマに含まれます。

学生の自主性を尊重しつつも、研究成果としてまとめられる実現性も考慮し、アドバイスします。ゼミ教員が担当する他の講義科目、演習科目などの履修が参考（または必要）になるでしょう。

【4 年生】

3 年生と 4 年生ゼミを合同で行ったりするなど、密接な関係性が求められます。ゼミ論文のテーマを決め、問題意識、研究上の問い、方法論、先行研究の批判的考察と整理などをすすめ、質的研究（参与観察、フィールド調査、文献資料の活用など）を重視した研究方法に取り組むでしょう。

教科書

【3 年生】【4 年生】

必要に応じて指定します。

参考文献

ゼミ教員が執筆した論文や書籍を参考にすることは有益です。

評価方法

【3 年生】【4 年生】

ゼミへの出席と参加態度、提出レポートなどで総合的に判断します。3 年生はテーマ課題レポートやフィールドワークのエスノグラフィーなど。4 年生はゼミ論文なども関係します。

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】【4 年生】

3 年生は木曜日 3 時限、4 年生は木曜日の 4 時限に登録する形になりますが、他の多くのゼミと同様に合同ゼミを行ったり、拡大ゼミ（3 年生は 4 時限も、4 年生は 3 時限も活用）の運営も行うことが多いので、**木曜日の 3 時限と 4 時限は必ずゼミ参加のために時間枠を確保**しておいてください。

履修モデル　　特にありません。

ゼミ合宿・フィールド調査

夏休み期間中などを利用して 1～２泊の予定で全員参加を原則とするフィールド調査とメンバーシップトレーニングを兼ねた合宿を行います。場所の選定はゼミ生たちと相談しつつ決めたいと思いますが、日本とアジアのつながりを社会、文化的な側面から模索するフィールドを選びたいと思います。その経費の負担についてもゼミ生と相談しつつ、他のゼミと同様、無理のない範囲で適切に決めていきたいと思います。2016 年度：

軽井沢セミナーハウス(夏)、大阪(冬)、2017 年度:香港・シンガポール(夏)、秩父 (冬)、2018 年度:釜山 (夏)、2019 年度:ベトナム・ホーチミン市

選考方法

1. ゼミ志望理由書を作成するにあたって以下の小項目について記述願います (文字数は指定しませんがゼミ選考におけるもっとも重要な判断基準になるため、できる限り詳細に作成していただくことが望ましいです。**情報が足りないために選考漏れするパターンが起きています**。)
   ① なぜ「グローバル・アジア研究」ゼミを志望することになりましたか。
   ② 日本とアジア諸国の和解のために、大学が果たす役割についてご提案ください。
   ③ あなたは、社会構築論系のどのような授業を今まで履修してきましたか。
   ④ ゼミを通して、どのような研究や学習について探求する予定ですか。(基本構想)
2. 2 年春学期までの成績を参考にします。
3. 面接を行うことがあります。

10	担当教員	科目名	定員
	高野　孝子	共生社会論ゼミ５（サステナビリティを目指して） プログラム：共生社会論	15 名

授業内容とゼミ紹介

私たちが生きている現代は、地球規模ならびに地域での様々な課題であふれています。すべての人たちがより豊かで安心した暮らしができ、それが未来世代にわたって続く、持続可能な社会（サステナビリティ）を目指すために、私たちひとりひとりには何ができるでしょう。

このゼミでは、「持続可能な社会」とはどのようなものかを概念的に理解し、その要素と地球規模ならびに国内の現状の一端を把握します。それはサステナビリティを阻害している要因について様々な方向から考えることでもあります。しかし概念を頭で考えているだけではなく、それが自分自身の暮らしや価値観とどのようにつながっているかを具体的に理解し、その上での行動が肝心です。ゼミ生の理解度、関心によって、自分たちで計画して現場を視察し、自分たちの暮らしの基盤とサステナビリティについて体験的に検討します。

ゼミでは１年間を通して３、４年生共同の研究調査とそれぞれの個人研究で構成されます。

前期の始めには、4 年生が 3 年生に授業を考えて実施することで、自らの知識を確かめ、かつ深めていきます。3 年生はそれを基礎とし、文献や共同での基礎研究、関連するほかの授業などから積み上げていきます。

共同研究では、身近な視点で、より持続可能な社会に近づくためにアクションを検討してほしいと思います。例えば「早稲田大学戸山キャンパスをよりサステナブルにするための工夫」などです。小グループで調査、考察し、実現し、発表します。年度の終わりには報告書を作成します。体験し、考え、行動し、振り返るという流れです。

個人研究は３年次から考え始めますが、４年次には、それぞれのテーマで持続可能な社会の構築について研究し、論文にまとめあげます。それは、新しい政治や社会制度の構築であってもいいし、思想的アプローチでも構いません。また食や高齢者介護などの具体的な内容からも歓迎です。必然的に、学際的、複合的な内容になります。

極めて複雑で広い概念を扱いながら、ここで焦点を絞って深く考察し、続く人生の中で様々な観点からさらに展開していく土台になることを期待しています。同時に、社会を変えていく力を養って欲しいと思います。

ミシガン大学生らと合同授業

変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。頭だけでなく、経験を通して身体で考え、深く考察します。それを表現しながら学び合い、人と

して成長することをねらいます。何度かの実習と合宿を予定しています。サステナビリティ理解の核は、人と自然の関係です。その体験的理解のため、自然の中や農山村、時には海外での実習の機会を作ることがあります。それらの費用は自己負担となります。

ゼミだけでなく、個々人で積極的に、そうした機会を見つけ、学びを共有してもらいたいと思います。

週１のゼミの時間以外にも、積極的に動くことが期待されます。そのため、サークル活動やバイトなどが大学生活の中心の人には向いていません。

ゼミ生が主体として作っていく学びの場です。しっかりと時間を作れる人、関心が自分のことだけでなく、他の人たちや社会に貢献することにある学生たちの履修を望みます。同時に、新しいことや難しいことにチャレンジする意欲、多様性を受け入れ、異なる人たちと協力協働する姿勢が必要です。共通体験を土台に考え、時には異なる体験を共有し、議論していきます。ゼミの運営には、ゼミ生同士はもちろん、教員とも密なコミュニケーションが大切です。

シラバス

【3 年生】

このゼミは教員と学生と話し合いながら軌道修正していきます。授業は学生主体で作っていきます。

４−５月は、4 年生によるサステナビリティ概論で、概要をつかみ、幾つかの共通文献を読んでディスカッション。６−７月はグループでの基礎研究と、後期のアクションを視野に入れた共同本研究に向けての準備。同時に、個人研究テーマの検討。夏は個人の個別研究テーマを進行。

９月から１０月には数日のゼミ合宿。海外の場合もあります。

１０−１１月は、グループ研究からアクションまで進め、その発表とディスカッション。

１２−１月は、ゼミ報告書作成ならびに、ゼミ論につながる研究テーマと方法の検討、発表と協議

【4 年生】

基本的には新３年生をサポートしつつ、一緒にサステナビリティについての理解を深め、前期の共同基礎研究、主に後期のアクションを視野に入れた共同本研究を実施。

夏休み前に、ゼミ論研究の中間発表を合宿形式で実施し、ほかのメンバーから意見をもらう。

前期は自分のテーマの研究調査を進め、後期には互いに読みあって意見をもらうなどの過程を経て、論文を完成させ、１２月に提出。ゼミ論講評会の実施や 3 年生のゼミ論研究への助言など。

教科書　参考文献

必要に応じて指定したり、またはいくつかの中から選んでもらいます。または自分たちで探して、提案しあいます。

評価方法

授業内外での参加、グループワーク／ディスカッション、レポート内容、ゼミ論文などにより、総合的に判断します。

関連 URL 高野が取り上げられた映画や、ウェブ上の原稿など。

https://www.youtube.com/watch?v=dF7YF8TiTvA

http://www.thecoaches.co.jp/hibiki/takano_takako/index.html

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】【4 年生】

2 学年合同で水曜の 4,5 時限に行います。3 年生は４時限、4 年生は５時限に登録されますが、多くの場合、2 学年合同でゼミを行いますので、両学年とも 4 時限・5 時限の時間を空けておいてください。また、ディスカッションや視察準備などで延長となることがままありますので、6 限以降も空けられることが望ましいです。

備考

ゼミとしては２０２０年度で４期目ですが、期間が定まっており、予定では 5 期目までとなっています。それ以降どうなるかは現在未定です。

選考方法

志望理由書、成績、面接によって、総合的に判断します。

＊志願理由書には、「ゼミを選ぶ理由」と「ゼミに貢献できること」を簡潔にはっきり書いてください。できれば自分の特徴と言えるような経験にも触れてください。主体的な人たち、探究心のある人たちを求めます。

＊面接には、現在のゼミ生が同席することもあります。

＊複数のゼミ生に会って、時間的金銭的負担や、進め方や内容などについて、納得してから志望してください。

学生会館でゴミ箱調査！

WWF 香港メンバーと明治神宮でフィールドワーク